

# CHESS Magazine♔

# #17

December 2024  
japanchess.org

Interview

IM Tran Thanh Tuさん

[自戦記]

FM 青嶋未来

IM Arif Abdul Hafiz

# ジャパンオープン2024

木下晃



Japan  
Chess  
Federation

全日本チームチェス選手権2024  
東京チェスフェスティバル2024 他

## Tournament Report

### 03 ジャパンオープン2024 木下晃

[優勝者自戦記] FM 青嶋未来

[入賞者自戦記・インタビュー] IM Arif Abdul Hafiz

### 18 全日本チームチェス選手権 2024

### 21 東京チェスフェスティバル 2024 森安 悠一郎

## Interview

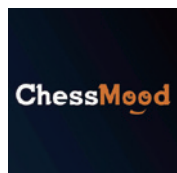
### 12 IM Tran Thanh Tuさん

## 海外遠征記

### 22 Asian Seniors Chess Championships 2024 参戦記 真鍋 浩

### 25 名プレイヤーから学ぼう vol.11 Boris Spassky 山田弘平

### 31 チェス大会inアメリカ NO.78-79 上杉賀子



Japan  
Chess  
Federation





**Tournament  
Report**  
大会レポート

**特集：  
ジャパンオープン2024**





# ジャパンオープン 2024 レポート

文：木下晃

## 「東京で行われている メジャートーナメントを 名古屋で開きたい」

その話をどこかの大会中、真鍋代表から聞いたのは1年程前でしょうか。僕は5年以上チェスから遠ざかっていてチェスに復帰したばかり。実はこの時、全日本選手権以外にどんな大会があるのかも把握していない状態でした。ただそれでも、チェス界に新しい風が吹いていることは感じました。

## 「会場は 名古屋国際会議場に 決まりました」

愛知県民の脳裏になぜかうっすらと刻まれているその名前を運営スタッフの一人から聞き、耳を疑いました。国際学会からプロレスまで、なにかしらのイベント会場となっているため、CMなどを通してサブリミナル的に脳に刷り込まれているのかもしれませんが。そんな会場のホールなんてどこもかしこもでっかいのですが大丈夫でしょうか。

## 「でっかい部屋を 確保しました」

昨年は神戸でジャパンチェスクラシックが開催されましたが、最終的に何名で開催されたのかは覚えていません。はたして、この会場に見合うほどの人数を集めることは可能なのでしょうか。僕は怖くなったので、プレーヤーとして集中することに切り替えました。

僕がチェスを始めたのは米国の大学在学中。初めての大会は大学近くの小さなインが会場で、内装が煌びやかだったのを覚えています。初 OTB、初 FIDE 戦でした。今でもその時の高揚感は覚えています。

帰国後は名古屋チェスクラブに通うことに。負けっぱなしの数年でしたが、それでも懲りずに通い続けていたのはチェスの魅力か、クラブの雰囲気のおかげか、あるいは単に自分の性格か。

その後東京に引っ越したりしながら徐々にチェスから離れ、愛知に戻ってきた時にはすっかりチェスは過去の記憶になっていました。

チェス再開のきっかけは覚えていませんが、2022 年オリンピックでの日本代表配信の盛り上がりなどがどこからか伝わってきたのかもしれませんが。再び名古屋チェスクラブに通うことになりました。そこで出迎えてくれたのはやはり、昔ながらのメンバーでした。

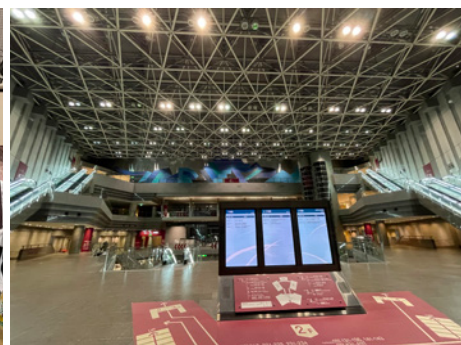


## 「でっかいナイト」

誰かが呟くのを耳にしましたが、確かに会場の中庭にはでっかい騎士像が鎮座しています。そんなチェスにふさわしい会場に集まったのは、多数の海外からの参加者を含め、約 150 名。

対局会場に入ると、そこはまさに国際大会。上を見上げると、天井には華やかに装飾された照明に、通訳ブースなるものも目に入ります。国際色豊かな選手達に加えこの煌びやかな対局会場を見渡していると、ここが名古屋会場だということを忘れさせてくれます。

さあ、大会スタートです。



## 「第 8 ラウンドをお願いします」

最終局が終わると地元新聞記者の方からインタビューを受けるという想定外の事態に。試合開始直後から「チェスの魅力は?」「今後の目標は?」という自分がいつも答えに窮する質問で完全に主導権を握られ、他の質問をあまり覚えていません。ただ、「最後に何か一言ありますか?」ともし聞かれていたらこう答えていたに違いありません。

## 「最高の大会でした」



木下晃



開催日：2024年11月1日(金)  
～11月4日(月・祝)

会場名：名古屋国際会議場4階  
レセプションホール

形式：7R スイス式、持ち時間  
90分+30秒/手、国内・FIDE ス  
タANDARD公式戦

### チェスジャパンオープン2024

#### ◆ オープン

1位 FM 青嶋 未来 6.0/7p

2位 IM 小島 慎也 6.0

3位 IM Hafiz, Arif Abdul 6.0

4位 IM 南條 遼介 5.5

5位 FM 山田 弘平 5.5

#### ◆ U2000

1位 古谷 昌洋 5.5

#### ◆ U1800

1位 Patil, Rushad 5.0

#### ◆ U1600

1位 井上 祐貴 5.0

#### ◆ 女子

1位 Chen, Yueyi 4.5

#### ◆ U18

1位 奥野 凜音 5.0

大会の概要が11月15日付け「中  
日新聞」webで報道されました。

[https://www.chunichi.co.jp/  
article/986663](https://www.chunichi.co.jp/article/986663)

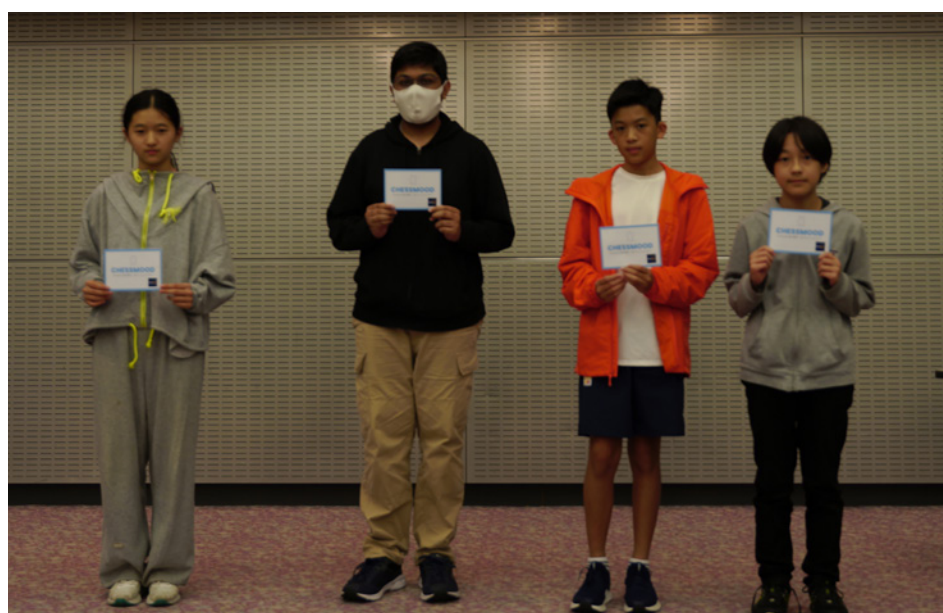
(CHESS Magazine 編集部より追記)



オープン



左からU2000、U1800、U1600







優勝者自戦記  
青嶋未来

今大会は4Rで負けてしまい、優勝どころか入賞できるか際どいと思っていました。しかし最終ラウンドの相手が南條さんと決まると、勝てば優勝する可能性が十分あり、沈んでいた気持ちが引き締まりました。せっかく名古屋に来たので、気分転換も兼ねてグルメを堪能しており、前夜はひつまぶしを頂きました。

さて、黒番ですが勝つことは絶対条件、南條さんはドローでも優勝という条件なので、手堅くドローを目指される可能性があり、こちらが無理して攻める可能性が増えるので通常よりも不利な状態ではあります。

**14.Bh6 e5** 白のキングサイドアタックに対してはf6のナイトを移動させてからe7-e5としてクイーン交換を挑むのが正しいです。これで互角に戦えるというのが準備していたアイデアでした。

**15.Qxd8 Rxd8 16.Bxg7 Kxg7 17.Nd2**



ここまでは時間を使うことなく進められました。しかし準備は終了したので自力で考える必要があり

ます。

**17...a4** 40分近くの大長考となりましたが、今思うと考えすぎですね。何をそんなに迷っていたのでしょうか(笑)。白はe2のビショップが使いにくいですが、黒はaポーンが孤立しています。これがナイトやルークで攻撃されて負担になってしまうと勝てないです。17...Bb7のように展開すると18.b3とされてa4,c4を抑えられた形が堅いので、何かする必要があります。17...Ne6も自然な手ですが、18.Nc4 Nxc4 19.dxc4 Nd4 20.Bd3の展開は黒がセンターポーンを進められないのでチャンスを作れないと判断しました。

**18.Nc4 Nxc4 19.dxc4 Bb7 20.f3 Bc6 21.Nb5 Ne6 22.c3** 白はc4

南條 遼介  
青嶋 未来  
Japan Open 2024(7)  
B51

**1.e4 c5 2.Nf3 d6 3.Bb5+ Nd7 4.a4** 作戦は迷いましたが Moscow を受けて立ちます。

**4...Ngf6 5.Nc3 a6 6.Be2 g6 7.O-O Bg7 8.a5 O-O 9.d3 b5 10.axb6 Nxb6 11.Qd2 Be3** ~ Qd2 ~ Bh6 を狙う手も自然ですが、11.Qd2 が最も多く指されています。

**11...a5 12.Qg5 Ne8 13.Qh4 Nc7**



南條 - 青嶋戦



でナイト交換することで Rd1 ~ Rxd6 を狙える形になります。ビショップの働きは黒が勝っていますが a4,d6 という弱いポーンを抱えているので忙しい局面です。

**22...f5 23.Rfd1 Nf4 24.Bf1 fxe4  
25.fxe4 Bxe4 26.Rxd6**



e4 と d6 の交換になり、エンディングの入り口となりました。直前の局面から考えていて何が正解か全く分かりませんでした。形勢は互角のままではあります。

**26...Nd3** 他の候補は Rxd6, Bc2, Bd3 を考えました。26...Rxd6 27.Nxd6 はナイトを d6 に使われること自体が損、26...Bc2 はかなり有力ですが 27.Rc1 でもよく分からないです。26...Bd3 は 27.g3 で催促される手が嫌でした。ということで 26...Nd3 を選びました。b2 を狙っていますが、27.Rxd8 Rxd8 28.Rd1 とされるとナイトがピンになるので危険の手です。ただその順は白もナイトを活用できないので選びにくいようです。

**27.Bxd3 Bxd3 28.Rxd8 Rxd8  
29.Rxa4 Rf8** 1 ポーンダウンで

すが Rf1# を狙いつつ e ポーンを伸ばす楽しみがあり、白は b2,c4 のポーンが弱く負担になりそうです。総合してやや黒が良くなったと思ったのですが、実際はこれでもイコールのようです。

**30.Ra7+ Kh6 31.h3 e4** 31...Kg5 と先にキングを上がり、32.Re7 Rf1+ 33.Kh2 Kf4 とすれば e ポーンを進められる形にできるのではないかと局後に検討しましたが、Nd6 ~ Nb7 ~ Nxc5 があるので微妙なところです。

**32.Re7 Kg5 33.Nc7** 33.Nd6 Kf4 の展開を考えており、33.Nc7 での活用は見えていませんでした。Ne6+ と Nd5 を使い分けられます。残り数分の状態で読みがない手が来ると焦りますよね。

**33...Rb8 34.Nb5 Kf4 35.Kf2 Bxc4 36.g3+ Kg5** キングを f4 に上がりましたが結局 g5 に押し戻され、失敗したかと思いましたが仕方がなかったようです。白キングを g3 に上げられてしまうと安定してしまいます。この辺りお互い時間も切迫しており、よく分かっています。

**37.h4+** これがブランダーとなりました。代えて 37.Nd6 Rxb2+ 38.Kg1 Kf6 39.Rxe4 Bd5 のような展開を考えており、イコールでした。

**37...Kf6** おそらくキングを h6 に引かせてから Nd6 として、Kf6

を防ぐ狙いと思いますが、ここで Kf6 が成立し、両方のピースを守る手がありません。

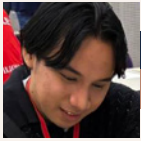
**38.Rxe4 Bxb5 39.b4 Bd3  
40.Rf4+ Ke6 41.bxc5 Rb3 42.Rf3  
Rxc3 43.Re3+ Kd5 44.Re7 h5  
45.c6 Rxc6 46.Ke3 Bf5 47.Kf4  
Rc4+ 48.Kf3 Bg4+ 49.Ke3 Rc3+  
50.Kf4 Rf3+ 51.Kg5 Bf5 52.g4  
Rg3  
0-1**

ピースアップして少し震えましたが勝ち切りました。互角の形勢が続いた試合でしたが、勝たなければいけないという状況の中、主張を作ってチャンスのあるエンディングに持ち込めたのが良かったと思います。

結果、僅差のタイブレークを制して優勝できました。今年の大会は全日本、ジャパンチェスクラシック、ジャパンオープンでタイブレーク勝負でした。自分の試合が終わっても結果が分からず、毎回緊張します（笑）。

今回は約 150 人もの参加者がおり、海外の選手も多く、国際大会のような雰囲気を感じました。会場もかなり広く素晴らしい場所でしたし、副賞の名古屋お土産も美味しかったです。名古屋まで遠征して良かったです。4 日間、選手、運営の皆様ありがとうございました！





Tournament Report  
Arif Abdul Hafiz

**IM Hafiz, Arif Abdul  
Furuya, Masahiro  
Japan Open 2024(5)  
D00**

This is the 5th round of the tournament. Previously I played 2 games with 1. e4 so I think he should have prepared against it. That's why I decided to play

**1.d4 d5 2.Nc3** I have prepared the Jobava London.

**2...c6** Here Black actually lets White play 3.e4 and transpose to the Caro-Kann Classical Variation.

**3.Bf4 Nf6 4.Qd2 Bf5** This is a very logical move bringing out the light-squared bishop before playing e6.

**5.f3!?** It looks like blocking the square for the knight to f3, but it controls the important e4-square.

**5...e6 6.g4!** And this is the idea behind f3, White is ready to gain space on the kingside and has no need to worry about the open king as White has prepared to castle queenside.

**6...Bg6 7.h4 h5 7...h6 8.Nh3**

**8.g5 Ng8** 8...Nfd7 is also possible but Black may have trouble on putting both knights to a good different squares after 9.Nh3

**9.e3 Bb4?!**



This looks like a normal developing move but not good for a reason. 9...Nd7 10.a3 b5!?!; 9...Bd6 is counter intuitive for Black as we exchange dark-squared bishops while most pawns are on light squares but this is playable as we still have many other pieces on the board. 10.Bxd6 Qxd6 11.0-0-0 Ne7 is probably better.

**10.Be5!** Now Black faces a tough choice about what to do with the g7-pawn.

**10...Rh7?** Okay probably this is the worst way to do, Black still loses the right to castle kingside and will take

so much time to reactivate the h7-rook and even Black still can castle queenside it is not that safe either as h2-b8 diagonal open.

a) 10...f6 will just create weaknesses on Black's territory 11.gxf6 gxf6 12.Bh2

b) 10...Bf8 This actually a quite logical move to play in the position but since the bishop just developed in the last move bringing it back to the original position is not what you want 11.Nce2! ± Nd7 12.Bh2;

c) 10...Nd7!?! sacrificing the g7-pawn 11.Bxg7 Rh7 12.Be5 Nxe5 13.dxe5 c5 14.Bb5+ Kf8 even black is down a pawn but probably has better chance for dynamic counterplay;

d) 10...Kf8 will lose the right to castle and block the h8 rook's activation but it has an interesting idea of manual castling.

**11.Nge2 Nd7 12.Bh2 Ne7 13.a3**

I decided to play a3 forcing Black to choose what to do with the pin.

**13...Ba5 13...Bxc3 14.Qxc3 Nf5 15.Bg1**

**14.0-0-0 Rh8 15.Nf4** It would be lovely for Black if he can castle here but take note that Black has played 10...Rh7 so kingside castling is no longer available.

**15...Nf8**



Hafiz - Furuya







**16.e4!** White is ready to open up the center.

**16...dxe4** Here I took some time because I missed Bb6 after 17.b4 - e3 18.Qxe3 and d5 push could not be played because of the pin. That's why I also considered 17.Nxg6. But I decided to play b4 anyway.

**17.b4** the idea behind a3. 17.Nxg6? e3! 18.Qxe3 Nfxg6

**17...e3** 17...Bb6 18.fxe4 a5 19.b5

**18.Qxe3 Nf5** Maybe no need to play this move immediately. This is what I thought:

(A) Black should play 18...Bb6 as now d5 isn't possible due to the pin. But when you have a good position, there will always be a good move 19.Ne4!



19...Nf5 20.Qe1 Qd7 (touching the d4-pawn will just adding more

burden for black) 21.Bh3;

(B) 18...Bc7 19.d5!



19...exd5 20.Nfxd5 Bxh2 (20...cxd5 21.Bb5+ Nd7 22.Nxd5) 21.Nf6+ gxf6 22.Rxd8+ Rxd8 23.Rxh2

**19.Qe1** Now d5 is inevitable.

**19...Bb6 20.d5 Be3+ 21.Kb2 Qe7** 21...Qb6 22.Na4 and there is no good square for the queen. Okay now white has many ways to continue but I think

**22.d6** is quite funny because it looks like just closing the position. I thought 22.dxe6 fxe6. Maybe just giving Black a way for the king (22...Nxe6 23.Nfd5 cxd5 24.Nxd5 again, the queen has no good square, and even it has, remember that Black cannot castle kingside).

22.Nb5!

**22...Qd7** is forced. 22...Qd8 23.d7+! Nxd7 24.Nxg6 fxe6 25.Bg1 Bxg1 26.Qxe6+ Qe7 27.Qxg6+ Qf7 28.Qxf7+ Kxf7 29.Rxd7+ Ke6 30.Bh3

**23.Nd3 0-0-0** 23...Nxd6 24.Ne5 (not 24.Qxe3?? Nc4+-+)

**24.Ne4 Qe8 25.Bh3** Okay at this point I wanted to convert my positional advantage into something simple and clear.

**25...Nd7** 25...Bb6 26.Bxf5 Bxf5 27.d7+ Rxd7 28.Nd6+ +-

**26.Bxf5** White can get more from 26.Ne5 Bd4+ 27.Rxd4 Nxd4 28.Qe3 Nb5 29.Nxg6 fxe6 30.c4

**26...exf5?** 26...Bd4+ (I just realized that there is ...Bd4 here after I played 25.Bh3) 27.c3 exf5 28.Nd2 (28.cxd4? fxe4 This is not what White wants) 28...Bb6 29.a4 White is still winning but may take a longer time.

**27.Qxe3** Now this was my idea with Bh3, Black still can do something with the a7-pawn as the Knight on e4 is still pinned.

**27...Kb8**



Not the best one.



27...fxe4 28.Qxa7 exd3 29.Qa8+ Nb8 30.d7+ Kxd7 (30...Rxd7 31.Qxb8#) 31.Qxb7+ Ke6 32.Rhe1+ +-; 27...Nb6 fails to 28.d7+ Rxd7 29.Qf4; 27...b6 28.Nf4 fxe4 29.Qc3 Kb7 30.Nxg6 fxg6 31.Rhe1.

**28.Bg1!** White still attacking a7-pawn but also now the Queen on e3 is protected.

**28...fxe4 29.Qxa7+ Kc8 30.Qa8+ Nb8 31.Nc5 Rd7 32.Nxd7**  
Black resigned.  
**1-0**



### Why did you participate in the tournament?

Previously I wanted to travel to Japan and participate Japan Open. 2 Years ago, I already booked the ticket but there was a problem with the visa because of Corona. 1 Year ago, there was another big event in Indonesia so I could not go. But last year May 2023 I could not wait, I went to Japan for travel. At that time, I have a chance to meet you (Abe Yuta) and some chess players at Kyoto University Chess Circle. Finally, this year after everything went well, I am glad I managed to participate Japan Open for the first time.

### What were your impressions of the tournament?

It was my first time participating tournament in Japan. First, the registration was very convenient. It is like buying a ticket so I can use

my credit card. Most tournaments only accept Bank Transfer, but it may require a lot of effort for International Transfer (especially to banks that I don't know). As I saw that previous Japan Open was held in a middle-sized room, I did not expect for the playing hall to be that big. And there were other big events like concerts and company events held there, so I think the place should be the best one.

The tournament was 7 rounds

accelerated pairing. It was my first time with an accelerated pairing. I think I wanted to play interesting games in the tournament. That's why I choose rare sideline openings. Eventually I finished 3rd place with 6 points, 5wins 2draws. I think I managed to play interesting games and was quite satisfied with the result. Overall, it was a good trip. I can't wait to play the next Japan Open!

(聞き手：阿部 裕太)



阿部 裕太さんより提供 左／Arifさん初対面時 右／Japan Open 2024



# Tran Thanh Tuさん

私にとって大切なのは  
タイトルそのものではなく  
それに見合う実力を身につけること

チャン・タン・トゥ

1990年ベトナム生まれ。2020年にチェス国籍をベトナムから日本に変更。2016年、2018年、2020年全日本チャンピオン。2022年、2024年チェスオリンピック日本代表。2024年のオリンピックではオープンチームの1番ボードを務め、全ラウンドフル出場した。8.5/11 P、Eloパフォーマンス2602の好成績でGMノームを一つ達成し、またIMタイトルを獲得した。



——チェスオリンピック2024  
ブダペストでのご活躍は素晴らし  
かったです。お疲れさまでした。  
International Master (IM)  
のタイトル授与、おめでとうございます。  
まずは大会全体を振り返  
っていかがでしたか？

ありがとうございます。IMタイトルよりも、GMノームを獲得できたことが本当に嬉しく思います。長年IMレベルでプレーし、レーティングも2400を超えていたため、「IMノームさえ取れば正式なIMタイトルは手の届く範囲だ」と感じていました。ノームを獲得するためには、ヨーロッパ遠征し、オープン大会、ノーム大会への参加が必要だと考えており、時間の問題だと思っていました。（お金の問題もあります（笑））

ブダペストでのチェスオリンピックは、私にとって忘れられない大会となりました。オープンチームは6勝5敗で69位という結果で、目標にしていた40位台入りには届きませんでした。全員がGMの強豪チーム・アイスランドに3-1で勝利したことは大きなハイライトでした。一方で、上位進出にはあと2回の引き分けが必要だったと痛感しています。

個人としては、IM4名に全勝し、GM6名に対しては3勝2敗1引き分けという結果で、11戦中8.5ポイントを獲得しました。この好成績を収め、GMノームを達成できたことに大変満足しています。

——では時系列順にお伺いします。オリンピックに出場するまでのひと月、8月はどのように過ごされましたか？

「8月はチェスオリンピックに向けて集中的にトレーニングしました。特に、過去に苦戦したオープニングの研究を徹底し、新しい戦術を習得しました。また、体力面では毎日一定量の運動を心掛け、十分な睡眠を取ることでコンディションを整えました。メンタル面では、過去の大会で成功した経験を振り返り、自信を持って臨む準備をしました。」・・・本当はこう答えたいところですが、これは理想的な計画で、実際にはなかなか実現できませんでした。仕事が忙しく、チェスの準備に十分な時間を取れませんでしたし、個人的な問題で一時的に気分が落ち込んだ時期もありました。本当に大丈夫かどうか心配になることもありましたが、現地に行って大会の雰囲気を感じることで、気持ちを切り替えられるのではないかと



思っていました。

ただ、今回はチーム構成が早めに公開され、チームとしても早い段階から動き始めていました。また、個人としてもレーティング枠で代表チーム入りがほぼ確定していたため、前もって準備を進めることができたのは救いでした。

### ———オリンピックの前半6ラウンドを振り返っていただけますか？

オリンピックの前半6ラウンドを振り返ると、序盤は非常に緊張感がありましたが、徐々に調子をつかむことができました。

第1ラウンドでは、格下の相手との対戦でしたが、中盤でタクティクスを見逃し、一時は負けそうな局面に追い込まれました。しかし、罠を仕掛けて逆転に成功し、何とか勝利を収めました。危ないスタートでしたが、これで少しリズムをつかめた気がします。

第2ラウンドでは、スロベニア代表のGMアントン・デムチェンコと

の対戦でした。彼は2021年の欧州選手権優勝者で、非常に強い相手でした。シンプルなアプローチでドローを狙いましたが、プランミスから局面が急激に悪化し、敗北してしまいました。さらに、チーム全体でも0-4と完敗を喫し、目を覚まされる思いでした。この時点でようやく「ウォームアップ期間が終わった」と感じ、立ち直す必要性を痛感しました。ただ、正直どこまで立て直せるかは不安でした。

第3ラウンドでは、黒番で複雑なカタラン・オープニングに誘導し、粘り強い戦いの末に勝利を収めました。ここで勢いを取り戻し、迎えた第4ラウンドは強豪チーム、ハンガリーBとの対戦でした。個人としては、2002年生まれの若手GMアダム・コザックと対戦し、なんと、勝利できました。この勝利は非常に印象深く、思い出すたびに今でも心臓がドキドキします。この試合がなければ、精神的にもチェス的にも、乗り越えら

れなかったかもしれません。

この勢いに乗り、第5ラウンドも勝利しました。第6ラウンドでは、キューバのGMとの対戦でした。この相手は、R2でGMシロフに勝ち、R5でGMアニシュ・ギリと引き分けた実力者で、非常に強いプレーを見せていました。この試合ではロンドンシステムを採用し、知っているポジションに持ち込むことができました。一時は少し優勢になりましたが、進むべき道を見つけれず、強制ドローのラインを選んで引き分けに持ち込みました。

結果として、個人では4.5/6という成績で前半を終え、GMノーム獲得の可能性が話題に上るようになりました。一方、チームとしては3勝3敗と厳しい状況で、後半戦に向けて気を引き締める必要がありました。

### ———休養日9/17はどのように過ごされましたか？

9月17日の休養日は、体と心をリフレッシュするために有意義に過ごしました。全試合に出場していたため、本当にこの休養日は必要でした。朝は少し寝坊して、久しぶりにゆっくりとご飯を楽しむことができました。その後、一部のチームメンバーと一緒に観光に出かけ、リラックスした時間を過ごしました。

特に印象的だったのは、2023年にブダペストを訪れた際から気になっていた気球に今回ようやく乗れたことです。気球から眺めたブダペストの素晴らしい景色は、言葉にできないほど感動的でした。



ジャパンチェスクラシック2023



国旗を持っていなかったの、代わりに日の丸が付いたユニフォームを空中で揺らしながら、特別な瞬間を楽しみました。午後は、みんなでランチを取った後、少し早めにホテルに戻って体を休めました。

夕方には、ブダペストに住む友人のGMに招待され、彼の家で行われた懇親会に参加しました。そこには、ベトナムチームの代表や他チームで活躍するベトナム人選手も集まっており、和やかな雰囲気の中で盛り上がりました。特に、ベトナムのオープンチームが2位という素晴らしい結果を出したことで、話題は尽きず、大いに賑わったひとときでした。

### —— 後半5ラウンドを振り返って、いかがでしたか？

GMノームの話題が出始めたので、まずその条件と背景についてお話しします。GMノームを獲得するには、最低でも9試合以上の出場が必要です。また、対戦相手の平均レーティングが高いほど、必要なポイント数が下がります。そのため、対戦相手の選定が非常に重要となります。

具体的には、ここまで4.5/6ポイントを獲得していたので、残り5試合のなかで3試合に出て、以下のようなパターンで条件（Eloパフォーマンス2600以上）を満たす必要がありました。これはあくまで一例であり、他のパターンも考えられます。

・格下（2200～2300台）の相手に全勝し、3/3ポイントを取る。

・格下の相手2名と格上（2500台）の相手1名に対戦し、2.5/3ポ

イントを取る。

・格上（2500台）の相手3名とすべて引き分け、1.5/3ポイントを取る。

チーム戦では出場するラウンドを調整できるため、対戦相手のレベルをある程度選ぶことが可能です。この戦略的な調整が、個人の成績やチームの成果に直接影響を与える重要な要素となりました。

第7ラウンドの相手はスーダンで、対戦相手のレーティングが2200台であることは事前に分かっていました。このラウンドに出場すると、対戦相手の平均レーティングが下がるため、GMノーム獲得に不利となる可能性があります。そのため、休むという選択肢もありました。コーチやチームメイトが私の意思を尊重してくれたので、とてもありがたかったです。しかし、当初の「全試合に出場してチームに貢献したい」という初心を思い出し、最終的には出場を決断。黒番でジョババ・ロンドンを指されましたが、しっかり対応して勝利を収めました。この勝利により、次のラウンドで格上相手からドローを取り、第9ラウンドで格下相手に勝利すればGMノームを獲得できるという明確な状況が見えてきました。

この時点で、集中を保ちながらも、内心では緊張感が高まり、テンションも非常に上がっていました。プレッシャーのなかで、SNSでの応援メッセージを見る余裕すらなく、ひたすら目の前の試合に集中していたのを覚えています。

元タスケジュールがタイトでしたが、GMノームが視野に入ってくるとさらに厳しくなっていきました。

た。ここで、私の1日のスケジュールをご紹介します。

朝は6:30～7:00に起床し、8:00までに朝食を済ませます。その後は部屋に戻り、相手の準備（プレパ）に取り組みます。10時にペアリングが発表され、対戦相手が確定すると、コーチの部屋を訪れて相談。大体30～60分でミーティングを終えた後、部屋に戻ってさらに深く局面を確認します。12:00～12:30の間にランチを取りますが、時間を節約するために部屋でカップ麺を食べながら準備を進めることもありました。

13:00頃にロビーに降り、バスを待ちます。ただし、運営が用意したバスは限られており、時間通りに来ないこともしばしば。私はリズムを崩したくないため、毎日同じバスに乗り、早めに会場へ向かうようにしていました。14:00頃には会場に到着し、フリースペースの一角に座って試合直前までスマホでプレパの復習を行います。

試合は15:00に開始し、終わるのは19:00～20:00頃。その後、バスでホテルに戻ります。夕食は遅い時間になりますが、日本チームが集まる貴重な楽しいひとときでした。夕食後はチームでコーチと振り返りを行い、次のラウンドに向けた準備や抜け番の調整をします。この振り返りが深夜11時を過ぎることもあり、そんなスケジュールを毎日繰り返していました。

テンションが高まってきた終盤には、食事中やバスを待っている間もスマホでプレパを確認するなど、準備に追われる日々でした。効率的だったかは分かりません



が、不安を抱えながらもできる限りのことをしようと取り組んでいたのは確かです。

第8ラウンドも第9ラウンドも勝利し、無事にGMノームを獲得できました。特に第9ラウンドでは、ドローでも条件を満たせる状況でしたが、試合を通じて相手にプレッシャーをかけ続け、最後にチャンスをつかんで勝ちに行きました。この勝利は自分にとっても非常に大きな意味がありました。

さらに、その同じ日は女子チームで坂井あづみさんがGMを倒し、格上チームのスコットランドに勝利するという素晴らしい結果もありました。日本チェスの歴史に残るような特別な日だったと思います。

しかし正直なところ、大会はまだ2試合残っており、最後まで気を抜かず集中しなければならない状況でした。GMノームを獲得した喜びを味わう余裕もなく、すぐに次の試合、格上のアイスランド戦に向けた準備に取り掛かる必要がありました。

第10ラウンドでは、なんと全員がGMで構成されるアイスランドに3-1で勝利するという快挙を成し遂げました。この勝利は、日本チェスの歴史に新たなページを刻むものであり、チームとしても大きな自信となりました。

続く第11ラウンドは通常と異なり、翌日の午前11時から早い開始時間でした。そのため、準備の時間が非常に限られており、私はコーチと共に夜中の1時半まで対策を練りました。しかし、実際の試合では準備していた展開から外



全日本チェス選手権2024

れ、激しい攻防戦を選択せざるを得ませんでした。その結果、私は惜しくも敗北し、チームとしても敗れて大会を終えることになりました。

#### ——GMノーム獲得のご感想をお願いします。

今回のGMノーム獲得は、自分がアマチュアとして最高の成果を収められたと思っています。これまでのキャリアのなかで最も高い成績でした。

2023年には多くの時間とお金を費やしてヨーロッパ遠征を行い、結果を求めて非常にプレッシャーを感じていました。しかし、遠征では1ノームも取れず、レーティングも大きく落ちてしまいました。その経験を踏まえ、今回は目標にGMノームを含めていませんでしたが、結果として達成できたことは大変嬉しいのです。これを通して感じたのは、練習では全力を尽くし、大会中は楽しんでプレーする方が効率的で良い結果をもたらすということです。

今回のGMノーム獲得には、いくつかの幸運が重なりました。まず、日本チームの1番ボードに座らせてもらえたことで、レーティングが高い相手と多く対戦できたこと。そして、日本オープンチームの平均レーティングが高かったため、対戦するチームの組み合わせが好条件となり、必要な相手の平均レーティング条件をクリアできました。それでもポイントをしっかりと取ることが必要であり、序盤の負けから立て直して勝ちを重ねられたのは、自分の成長を感じるポイントです。特にR4でGMアダム・コザックを倒したことは精神的にもチェスの内容的にも良い流れを生みしました。

精神面では、日本からの温かい応援に助けられましたし、チェスの準備面では、コーチのMishaとのプレパレーションが非常に効果的でした。対戦相手ごとに準備すべきラインを検討し、新しいアイデアを取り入れるかどうかを相談しました。そのなかでMishaから素材を提供してもらい、短期間で新



しいオープニングを学び、実戦に投入した試合が3～4回ありました。このような「サプライズ戦術」は、準備期間が短いなかで非常に大変でしたが、有効な手段でした。

上述に重複するかもしれませんが、大会中は、一局ずつ、さらに一手ずつに集中することの大切さを改めて実感しました。途中からは、GMノーム達成に必要な条件が計算されるようになり、ラウンドごとに対戦相手の平均レーティングや必要なポイントを意識しながら戦う場面もありました。R7では格下の相手との対戦で平均レーティングを下げるリスクを考え、休むことも選択肢としてありました。しかし、自分が「全試合に出てチームに貢献したい」という初心を思い出し、出場を決断しました。その後も、GMノームのことを考え過ぎず、一戦一戦に集中して取り組んだ結果、最終的に目標を達成できました。

今回の成果は決して自分一人の力ではなく、多くの方々の支えがあってこそその結果です。チームに少しでも貢献でき、その流れで個人的な成果を得られたことを心から感謝しています。

現地ではコーチやチームメイトからの手厚いサポートを受け、オープンチームだけでなく女子チームや同行者の皆さんとも一体感を持って戦えたことがとても大きかったです。全員が「ワンチーム」として連携できたことが、今回の成果の一因だったと思います。

さらに、日本からは日本チェス連盟やサポートスタッフ、クラウ

ドファンディングで支援をいただいた方々、そして深夜まで実況・解説・配信をしてくださった方々や、熱い応援を送ってくださったチェスファンの皆さまから温かい支えを感じました。そのおかげで、大会中のプレッシャーを乗り越える力を得ることができました。ありがとうございました。

### ——大会中、ご自身のゲーム以外で、何か思い出に残る出来事がありましたか？

大会中、自分のゲーム以外で特に印象に残ったのは、女子チームの坂井あづみさんがGMを倒した試合です。その結果、日本の女子チームが格上のスコットランドチームに勝利しました。この出来事は日本チェスの歴史に残る快挙で、チーム全体が一体となって喜び合った瞬間でした。同じ日本代表として、その場にいられたことに大きな感動を覚えました。笑うときも泣くときも一緒に応援し、分かち合い、チームとして戦う、というのがとても素敵でした。

また、ディナーの時間はチーム全体が集まり、試合の振り返りや雑談を交えながらリラックスできる貴重な時間でした。厳しいスケジュールのなかでも、チームメイトとのこうした交流が心を和ませてくれたのも、思い出深い出来事の一つです。

### ——今後の抱負をお聞かせください。

今後の抱負として、目標の一つに絞るなら、やはりGMタイトルの獲得です。ただし、私にとって大

切なのはタイトルそのものではなく、それに見合う実力を身につけることです。GM相当の実力に達すれば、自然とノームを重ね、GMタイトルにたどり着けると信じています。そのため、日々の練習を通じて自分の成長を実感し、チェスを楽しみながら努力を続けていきたいと思います。

また、日本のチェスコミュニティに恩返しをすることも重要な使命だと感じています。これまで多くの方々から支えられてきたことで、今の自分があります。その経験を生かし、自分の知識や技術を共有して、若い世代やこれからチェスを始める人たちをサポートしたいです。チェスの魅力を広め、プレーヤーやファンの輪をさらに広げることで、日本チェス界の発展に貢献したいと考えています。

私の夢の一つは、日本にチェスを学校で教えられる仕組みをつくることです。多く子どもたちがチェスに触れることで、そのなかから才能ある子どもたちが育ちます。また、日本チェス界に大きなスポンサーが現れることで、より多くのプレーヤーが活動しやすい環境を整えたいという願いもあります。ピラミッドのように、基盤が広がれば広がるほど、その頂点は高くなれると信じています。

最終的には、自分自身の成長とチェスコミュニティへのリターンを両立させながら、チェスの道を歩み続けていきます。夢を追いかけながらも、日々の努力を楽しむ姿勢を大切にしていきたいと思います！





初めての相手と、気軽に指せる楽しみ

# Chess Center UENO

各 部  
入 場 料 500円

営 業  
時 間

木  
曜 日

1部  
17:00  
▼  
22:00

土  
曜 日

1部  
10:00  
▼  
14:00

日  
曜 日

1部 2部  
10:00 14:00  
▼  
14:00 18:00

チケットご購入  
(Peatix)



※最終入場は各営業日の終了30分前です。

## チェスセンター上野

東京都台東区北上野2-11-3シルバーフラット101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分  
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分  
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

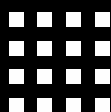
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : [info.chesscenterueno@gmail.com](mailto:info.chesscenterueno@gmail.com)



1人でもOK

スタッフがお相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地  
(Google Map)



※価格、営業時間は掲載時点のものです。





# 全日本チームチェス選手権 2024











オープン優勝 L'espoir



グループA優勝 Kyodai Chess Circle



学生チェス連盟加盟サークル1位 Keio B



ボード賞 受賞者

2024年9月28日と29日の2日間、東京都品川区の「きゅりあん(品川区総合区民会館)」で全日本チームチェス選手権2024が開催されました。4人1組のチーム戦で、6Rスイス式、持ち時間30分+30秒/手の公式戦です。今年の出場チーム数は54チーム、総勢247名、同時に108ボードで対局が行われました。昨年を上回り日本最大のチェス大会となり、お揃いのユニフォームを着て参加するチームや大会初の企

業チームなど、大いに盛り上がりを見せました。どのラウンド、どのボードも白熱した試合が繰り広げられ、第5ラウンドではこれまで無敗同士のL'espoirとAzabu Chess Club OBの直接対決となり、事実上の優勝決定戦となりました。結果は3-1でL'espoirが勝利。続く最終ラウンドも勝ったL'espoirが12ポイント中12ポイントを獲得する完全試合を成し遂げ、見事にオープンカテゴリーで1位となりました。

2位はAzabu Chess Club OB、3位がTodai Chess Circle Aとなりました。また、グループAの1位は、Kyodai Chess Circle、学生チェス連盟加盟サークル内での1位は、Keio Bでした。オープン1位のL'espoirは10代～20代で構成された若手チームであり、オープン3位のチームも大学生チームであるなど、若手の健闘が目立ちました。入賞者の皆さま、おめでとうございます!!

#### チーム賞

##### ◆オープン

- 1 位 L'espoir 12/12P
- 2 位 Azabu Chess Club OB 10
- 3 位 Todai Chess Circle A 10
- 4 位 Chiba Chess Club A 9
- 5 位 8×8 Blunders 9

##### ◆グループA

- 1 位 Kyodai Chess Circle 8/12P
- 2 位 Tokyo Tech 7
- 3 位 Waseda 7
- 4 位 Setouchi Chess Club B 6
- 5 位 Yokohama Rooks 6

#### ボード賞

- 1B Gonzalez, Valenzuela  
Didac 6.0/6P
- 2B Ni, Fang 5.0
- 3B 山元聡一郎 5.0
- 4B 米満康平 5.5





## 東京チェス フェスティバル2024

森安 悠一郎

10月13日（日）、東京都品川区のきゅりあんで東京チェスフェスティバル2024が開催されました。普段の大会と雰囲気を大きく変え、会場の中を自由に移動し様々な企画を楽しみながらチェスを通し他の参加者と交流を楽しむことを主眼に置いてイベントが計画されました。予定を合わせ友人と参加して頂いた方々やチェスに親しむきっかけを探して飛び入りで参加して頂いた方々など、チェスが好きという共通点を持つ参加者同士で和気藹々と楽しめる一日になりました。

企画の目玉はオリンピックオープンチームの日本代表をゲストにお呼びしたイベントでした。IM 南條遼介選手、FM 青嶋未来選手の同時対局には参加希望者が集まり、抽選に選ばれた対局者はトッププレイヤーと対局ができる貴重な経験を味わうことができました。また、CM Tran Thanh Tu選手、IM小島慎也選手も加わった「強豪プレイヤー ガチブリッツ対決」は、ブリッツという新たなステージで火花を散らすゲストたちの至上の対局を同じ舞台上で戦ったチームメイトの解説付きで観戦することができる、白熱したイベントとなりました。

他の企画については、部屋ごとにガラリと雰囲気が変わっていました。「ブリッツ闘技場」では、初めましての相手であっても全力で盤と向き合いつつ、勝負が終わった後はチェスの談義に花を咲かせるような、真剣さと温かさが混ざった様子でした。「ルーキーズチェス」では公式戦の作法を実演しながら覚えることができるという教室のような雰囲気が広がっていた一方で、トークイベント「どうなる日本チェス連盟」では参加者から寄せられた日本のチェスの展望に関する質問に対して日本チェス連盟の理事3名がビジョンを語り、引き締まった時間となりました。

現在、日本チェス連盟が主催するイベントはほぼ全てが公式大会です。一方で、今年に入り、より多くの方に気軽にチェスを知ってもらうことを目的とし、チェスの世界へのハードルを下げるようなイベントの開催を始めています。新しい試みということもあり、どのような企画内容が参加者にとって面白いかを手探りで進めている段階で、アイデアを募集しています。

読者の皆様にとって、「自分がチェスを始めた頃の頃はこういう機会が楽しかった」「こういうイベントがきっかけでハマっていった」という経験はございますでしょうか？ぜひ連盟のメール宛に ([japanchess.info@gmail.com](mailto:japanchess.info@gmail.com)) 送っていただければ幸いです。





## Asian Seniors Chess Championships 2024 参戦記

### 真鍋 浩

8月9日から19日までモンゴルのウランバートル郊外のTereljで開催された Asian Seniors Chess Championshipsに、プレーヤーとして参加しました。今回で13回目となる大会ですが、日本からの参加は初めてのようで、自分自身にとっても初の海外大会挑戦となりました。

Asian Seniorsは50歳以上と65歳以上の2つのクラスに分かれて、スイス式9ラウンドを戦います。各クラス上位3名にはIM・FMのダイレクトタイトルが与えられ、女子の上位3名にも女子タイトルのチャンスがあります。今回の大会には50歳以上に38名、65歳以上に43名、計81名のエントリーがあり、そのうち地元モンゴルの選手が58名で

した。私のスタートランクは38名中7番目でしたが、URのモンゴル選手が多数エントリーしており、不気味な存在でした。

大会会場のResort World Terelj Hotelは、ウランバートル市内から約60km離れたリゾート地にあるホテルで、地元選手以外はこのホテルに宿泊します。日本からウランバートルまではMIATモンゴル航空の直行便で約5時間半、空港にはボランティアが迎えに来てくれており、ホテルまで車で約2時間の移動です。ホテルに着いたのは22時でしたが、トーナメント・ディレクターのWGM Altan-Ulzii Enkhtuulさんが出迎えてくれました。

大会初日、9時からテクニカルミーティングがあり、午後の開会式のあと第1ラウンドが始まりました。2日目以降は、R3とR4が一日2局であった以外は、一日1局が基本。朝食の後、10時から対局が始まり、14時頃に対局が終わった

後、昼食。自由時間も多く、大会中とはいえ、比較的のんびりと過ごせた一週間でした。

大会前半は一進一退の成績で、前半の5ラウンドで3P。Rest Day明けの6ラウンドで痛い敗戦を喫し、7ラウンドで勝ちを取り戻し、3勝2敗2分で迎えた第8ラウンドのゲームを解説します。







Manabe, Hiroshi (2006)  
 Bayarsaikhan, Tumurbaatar  
 (UR)  
 Asian Seniors Championships  
 2024 +50 (8)  
 Slav Defence D15

1.d4 d5 2.c4 c6 3.Nf3 Nf6 4.Nc3  
 Bf5? 5.cxd5 cxd5 6.Qb3 b6?  
 7.Bg5 e6?? 8.e4!



スラブの序盤で黒にいくつか疑問  
 手があり、早くも白が優勢になり  
 ます。

8...dxe4 9.Bb5+ Nbd7 10.Ne5  
 Be7 11.Bxf6 gxf6 12.Nxd7 a6  
 13.Nxb6+

ここは、13.Bc6 Rc8 14.Nxf6+ Kf8  
 15.Nd7+ Kg7 16.Qa4 との比較に悩  
 み、時間を使ったうえで単純化す  
 る13.Nxb6+を選びましたが、13.  
 Bc6のほうが良かったようです。

13...axb5 14.Qxb5+ Kf8 15.Nxa8  
 Qxa8 16.d5! Rg8 17.Qc6!



隣のボードで対局していたインド  
 のIMに局後褒められた手。a8-h1の  
 ダイアゴナルを奪い返し、キング  
 サイドを安全にします。

17...Qa5? 18.d6 Bd8 19.g3! e3  
 20.fxe3 Qe5 21.Qf3 Qxd6 22.Rd1  
 Qb6 23.0-0? Be7?



23...Bg4が最善でした。以下  
 24.Rxd8+ Qxd8 25.Qxf6 Qxf6 26.Rxf6  
 と進んで白優勢ですが、本譜より  
 は良かったようです。

24.Nd5!!

気持ち良いタクティクスで、決め  
 手となりました。

24...Qxb2 25.Nxe7 Kxe7 26.e4?

うっかりミスでした。26.Rf2 Qc3  
 27.Qf4 Rc8 28.a4 なら、紛れなく勝  
 勢でした。

26...Bg4 27.Rb1 Qd4+?

ミスの応酬。単純に27...Bxf3  
 28.Rxb2 Bxe4 ならポーン1枚違い、  
 まだ難しかったと思います。

28.Qf2 Qe5 29.Qxf6+

はっきり勝勢なので、単純化を目  
 指します。

29...Qxf6 30.Rb7+ Kd6 31.Rxf6  
 Ra8 32.Rf2 f5 33.exf5 Bxf5  
 34.Rfb2 Ra3 35.R7b3 Ra4  
 36.Rc3

これで2つのルークが縦横に盤面を  
 カバーする形になり、あとはゆっ  
 くりポーンを進めるだけになりました。  
 以下、手数はかかります  
 が、慎重に進めて勝ちました。

36...Be4 37.a3 Bd5 38.Rb6+ Ke5  
 39.Rb4 Ra7 40.Kf2 Rf7+ 41.Rf4  
 Rb7 42.Ke3 Rb2 43.Rh4 Rb7  
 44.Rh5+ Kd6 45.Kd4 Rf7 46.Re3  
 Ra7 47.Rc3 Rf7 48.Rc5 Bf3





49.Rh6 Ra7 50.Rc3 Bd5 51.Ke3  
Rf7 52.Rh4 Rf3+ 53.Kd2 Rf2+  
54.Ke1 Rf7 55.a4 Ra7 56.Ra3 e5  
57.Kd2 e4 58.Ke3 Ke5 59.Rh5+  
Ke6 60.Kd4 Bc6 61.Rh6+ Kd7  
62.Rxh7+ 1-0

この勝利で4勝2敗2分となり、入賞に望みを繋ぎましたが、最終戦で格上のFMに破れ、入賞はなりませんでした。優勝はトップシードのGM Bazar Khatanbaatarさん(モンゴル)、表彰式にはモンゴルの教育大臣も出席されました。

大会期間中は、自然と英語で会話するグループ、マレーシア・フィリピン・インド・クウェート・ニュージーランドの選手との食事が多くなり、シニア選手がいろいろな形でチェスライフを楽しんでいることが垣間見えました。

R1で対戦したクウェートのMuhannad Alsultanさんは、2年前に本格的にチェスを始め、もう一つの趣味であるバイクと合わせて、各地に旅行をしている方でした。ニュージーランド人のCM Helen Milliganさんは、International Arbiterの資格も持つ女性プレーヤーで、この大会の後にもラオスやマレーシアの大会に出場しており、まさに世界を旅するチェスプレーヤーです。インドのIM Sekhar Chandra Sahuさんはベテランのチェスコーチで、

若いころはインド国内の大会でGM Anandに次いで2位になったこともあるそうです。フィリピンのIM Efren Bagamasbadさんは、2年前のこの大会で優勝し、65歳でIMタイトルを取得したプレーヤーです。

私自身もまたこのような大会に出てみたいと思いますし、日本のシニアプレーヤーにもぜひ挑戦してほしいと思います。いつかは、World Senior Team Chess Championshipsというシニアのチーム戦に、日本チームとして出場を目指したいと思います。



親しくなった各国のプレーヤー達と



会場風景





# 名プレイヤーから学ぼう

## Learn From Legends

### vol.11 Boris Spassky

#### Boris Spassky

(ボリス・スパスキー, 1937-)

ソ連出身の第10代世界チャンピオン。鋭いタクティクスを得意とする一方、ポジショナルプレーも高いレベルでこなし、万能の世界チャンピオンと呼ばれる。アメリカのFischerとはライバル関係にあり、Fischerと戦った1972年の世界選手権はロシアvsアメリカの象徴とされ、「世紀の一戦」と呼ばれた。

理論家として評価は高くないが、Marshall GambitやKing's Gambitといった戦法を復活させるなど、Spasskyの貢献によって研究が進んだ序盤は数多い。



Boris Spassky (Wikipediaより)

今回は第10代の世界チャンピオン、Boris Spasskyを紹介します。これまで連載で紹介した中では初めて、記事執筆時点で存命の選手です（現在87歳）。

Spasskyはソ連のレニングラード（現在のサンクトペテルブルグ）で生まれました。レニングラードはフィンランドとの国境近くに位置しています。第二次世界大戦中には、フィンランドとドイツの連合軍が数年にわたって街を包囲するという、レニングラード包囲戦によって、深刻な被害を受けました。

幼少期のSpasskyは、このレニングラードから脱出する列車の中で、チェスのルールを覚えたと言われています。

10歳の頃から、マスターのコーチについて本格的なトレーニングを始めたSpasskyは、他の世界チャンピオンたちと同じように、早い時期から才能を現しました。1947年にBotvinnikが行った同時対局で勝利を収め、15歳の頃にはソ連マスターの称号を獲得します。

GMになったのは、1956年の世界チャンピオン挑戦者決定戦に進出した時のこと。弱冠18歳での挑戦者決定戦進出&GM獲得は当時最年少の記録だったようです。鋭いアタックを特徴とする若者は、すぐにソ連チェスの期待の星となりました。

このように、Spasskyのチェス人

【文】山田 弘平 (やまだ こうへい)

1988年北海道生まれ。FIDEマスター/FIDEインストラクター。国内大会の優勝、日本代表経験あり。日本初のスポンサードプレイヤーとして活動する一方、オンライン講座で普及活動も行っている。



生は順調にスタートしました。しかし、世界チャンピオンに至る道は決して平坦ではありませんでした。むしろ、歴代のチャンピオンの中では最も大きな挫折を味わったチャンピオンと言っても良いでしょう。

1958年、SpasskyはコーチであったTolushと同点でレニングラード選手権を優勝すると、リガで行われたソ連選手権に駒を進めました。このソ連選手権で4位に入ることができれば、ソ連代表としてインターゾーン選手権に進むことができます。インターゾーンは世界チャンピオンの挑戦者決定戦の予選になっており、チャンピオンを目指す大きな関門の一つです。

このソ連選手権の中盤、Spasskyは2位のPetrosianに1点差をつけて、トップに立ちました。Bronstein、Polugayevskyといった強力なライバルたちを倒して、少なくともインターゾーンへの進出は確実と思われました。

ところが、優勝を意識したのか、後半戦でSpasskyは突然崩れてしまいます。GurgenidzeやKotovといった、中位のプレイヤーによもやの敗北を喫すると、その間にライバルたちに追い抜かされてしまいます。最終ラウンドでは、PetrosianとTalがトップ、0.5点差でBronstein、1.0点差でSpasskyとAverbakhという順位になっていました。

最終戦、Spasskyの相手はソ連の若手ホープとして名高いMikhail Talでした。順位を争っていたPetrosian、Bronstein、Averbakhは早々にドローで試合を終わらせます。Spasskyは勝てば3位タイでインターゾーン選手権進出、ドローならばAverbakhとの4位決定戦を戦うことになる状況でした。

**Spassky, B**

**Tal, M**

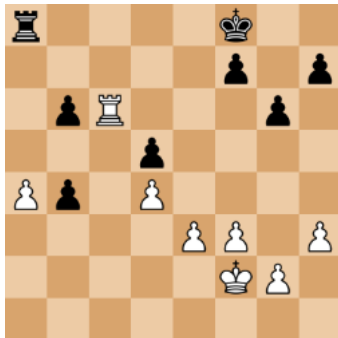
USSR-ch Riga 1958

1.d4 Nf6 2.c4 e6 3.Nc3 Bb4 4.a3 Bxc3+ 5.bxc3 c5 6.e3 Nc6 7.Bd3 e5 8.Ne2 e4 9.Bb1 b6 10.Ng3 Ba6 11.f3 Bxc4 12.Nf5 0-0 13.Nd6 Bd3 14.Bxd3 exd3 15.Qxd3 cxd4 16.cxd4 Ne8 17.Nf5 d5 18.a4 Nd6 19.Nxd6 Qxd6 20.Ba3 Nb4 21.Qb3 a5 22.0-0 Rfc8 23.Rac1



ここで、黒のTalはドローをオファーしました。もしドローならば、Talは1位タイを安全に確保できますが、Spasskyのインターゾーン進出は持ち越しになります。Spasskyはこのオファーを蹴りました。

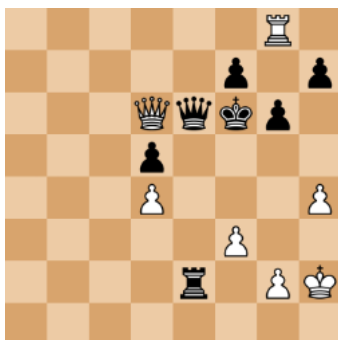
23...Qe6 24.Bxb4 axb4 25.Kf2 Qd6 26.h3!? Kf8 27.Rc2 Rxc2+ 28.Qxc2 g6 29.Rc1 Qd7 30.Qc6 Qxc6 31.Rxc6



cファイルをめぐる攻防の結果、ゲームはルークエンディングになりました。ここから、勝ちを目指すSpasskyの心理状態が盤上に少しずつ影響を及ぼし始めます。

31...Ra6 32.a5! b3 33.axb6 b2 34.b7 b1=Q 35.Rc8+ Kg7 36.b8=Q お互いにbファイルでクイーンを作り合います。お互いにチェックに注意しながら指さなければいけないので、とても難しいエンドゲームとなりました。

36...Ra2+ 37.Kg3 Qe1+ 38.Kh2 Qxe3 39.Rg8+ Kf6 40.Qd6+ Qe6 41.Qf4+ Qf5 42.Qd6+ Qe6 43.Qg3 Qe3 44.h4! Re2! 45.Qd6+ Qe6



ゲームはここで封じ手を迎えました。再開は翌日。二人のプレイヤーとそのチームは、夜通し分析を行いました。

黒のキングが白のチェックから完全に逃れる方法は明らかではなく、かといって白に明確な勝ちも

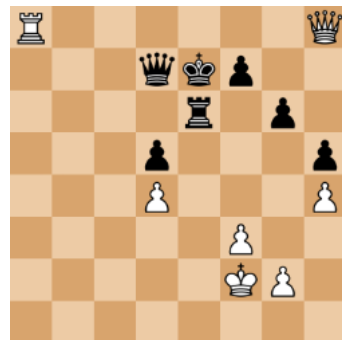
ありません。結論は出ず、Spasskyは「明日私はTalをメイトにする！今は寝る時間だ！」と言って途中で引き上げたといいます。

46.Qf4+! Qf5 47.Qh6 Ke7 48.Qf8+ Kf6 49.Qg7+ Ke7 50.Ra8 Qd7?

結論が出ないのはTal陣営も同じでした。お互いに危ないと考えていた50...Qf4+が唯一の正解で、51.Kh3 Qf5+ 52.Kg3 を入れてから52...Qd7と引けば、白がメイティングネットを張った瞬間に...Qd6+とできるため、ディフェンスできていたようです。

51.Qf8+ 51.Qh8!!が絶妙な手渡しで、黒には有力な手がなく困っています。全ての変化を書くスペースはありませんが、51...Qd6+ には52.Kg1として次のRe8+などを狙いにすれば、黒に上手いディフェンスがありません。

51...Kf6 52.Ra6+ Re6 53.Qh8+ Ke7 54.Ra8 Re1? (54...h5! ±) 55.Kg3? (55.Rc8! h5 56.f4 Re2 57.f5!! gxf5 58.Kg1+-) 55...h5 56.Kf2 Re6



57.Rc8?! Talはこの手に「!」をつけていますが、実際には57.Qb8!



が最も有力な勝ち筋でした。

57...Kf6 58.g4! hxg4 59.fxg4 の後のg5+ が受けづらいのです。一例を示すと、59...Re4 60.Qh8+ Ke7 61.Qf8+ Kf6 62.Ra6+ Re6 63.g5+ Kf5 64.Qa3!!+ で白勝ちとなります。

上の変化でも、最後の64.Qa3以外の手では白が勝てません。それほど複雑なポジションを、挑戦者決定戦進出をかけた大一番でプレーすることの心理的な重圧は、ほとんどのプレイヤーには想像もつかないでしょう。

57...Rd6 58.Qf8+ Kf6 59.Re8 Re6 60.Qh8+ Kf5 61.Qh6 Kf6 62.Qh8+ Kf5



紆余曲折を経て、このポジションに到達しました。ここでは63.Qh6 Kf6 64.Rg8! ± で白に勝つチャンスがある、と後にKasparovは書いています。

63.Rd8 Qc6! 次の...Qc2+による反撃が現実味を帯びてきました。

64.Rc8 Kasparovはこのシーンについて、次のように書いています：「Spasskyは情性で勝ちを目指してプレーし続けていたが、突然相手の返し技に気づいた。目撃者によると、妙に変わった声で引き分けを申し出たという。」

64...Qa6 Talはドローを蹴りました。

65.Kg3 Qd6+ 66.Kh3 Re1 67.g3? この手が致命的なミスでした。67.g4+! hxg4 68.fxg4+ Kf4 69.Rc3!= ならば互角のポジションです。2日間に渡ってプレーし、疲れ切っているSpasskyには、この手を発見する運と体力は残されていなかったようです。

67...Rg1 68.f4 Re1!-+ 69.Rc2 Qe6! 70.Rf2 Rh1+ 71.Kg2 Qe4+ 72.Rf3 Kg4! 73.Qc8+ f5 0-1

形勢が入れ替わって以降は、Talの正確なプレーにより、Spasskyはリザインを余儀なくされました。

この敗北により、わずか数日前までトップを走っていたSpasskyは、5位に終わりました。インターゾーンの出場枠には惜しくも届かなかったのです。

優勝したTalがこの後、インターゾーン選手権、挑戦者決定戦と優勝し、Botvinnikを倒して世界チャンピオンになったことを考えれば、このゲームが二人の運命の分岐点だったと言えるでしょう。

Talに敗れた2年後、ソ連選手権に出場したSpasskyは、一見無謀とも思えるサクリファイスを主体としたプレースタイルとなっていました。これはTolushとのトレーニングの結果であり、このスタイルが実ったのは16ラウンドでした。

**Spassky, B**

**Bronstein, D**

USSR-ch Leningrad 1960

1.e4 e5 2.f4!?

SpasskyはKing's Gambitを採用します。AnderssenやMorphyの時代にはよく見られた超攻撃型の戦法ですが、このときにはディフェンス技術も進歩して、トップレベルのチェスではほとんど見向きもされない定跡でした。

しかしSpasskyは、古典的で攻撃的な戦法をいくつかリバイバルして使っていました。アメリカのFischerとの初対戦は同じ1960年のことですが、そのゲームもKing's Indianで勝利しています。

2...exf4 3.Nf3 d5 4.exd5 Bd6 5.Nc3 Ne7 6.d4 0-0 7.Bd3 Nd7 8.0-0 h6?



Bronsteinらしからぬ、オープニングのミスです。ギャンビットに対抗するときに一番避けるべきは、消極的にプレーして自分のピースを使えないまま戦ってしまうことです。8...Nf6としてとにかくピースの展開を急ぐべきでした。

9.Ne4! Spasskyはチャンスとみて攻めかかります。次に10.c4とされてはセンターポーンが強すぎるので、黒はd5のポーンをとって戦いに応じるよりありません。

9...Nxd5 10.c4 Ne3 11.Bxe3 fxe3  
ピースの展開でリードした白の方

針は、なるべく強い狙いを作り続けて、相手に陣形を整える暇を与えないことです。このような主導権が鍵を握るゲームは、Spasskyの十八番とも言えるでしょう。

### 12.c5! Be7 13.Bc2!

慌ててe3のポーンを取りに行くよりも、Bc2-Qd3からメイトを狙う方が強力です。

**13...Re8?! 正しいディフェンス**は13...g6 14.Qd3 Nf6 15.Qxe3 Nxe4 16.Bxe4± とポジションを落ち着かせることですが、センターでスペースを取っている白が、ビショップペアを持っている黒よりも、アタックを作りやすいでしょう。

### 14.Qd3 e2!?



**15.Nd6!!?** 強烈なナイトサクリファイス！ルークを見捨てて相手のキングにプレッシャーをかけます。シンプルに15.Qxe2 Nf8 16.Rad1であれば、白には大きなアドバンテージがありましたが、Spasskyはより激しく局面を動かしにいきます。

実際にはこの手は成立しておらず、15...exf1Q 16.Rxf1 Bxd6! 17.Qh7+Kf8 18.cxd6 cxd6 19.Qh8+ Ke7 20.Re1+Nf5 21.Qxg7と進めば互角です。

GM Ftacnikはこの手が良くない

ことを指摘しながらも、次のように書きました：「歴史は勇敢なプレイヤーに微笑んだ。白が勝っただけではない。このゲームはジェームズ・ボンドの映画”ロシアより愛をこめて”に使われたのだ！」

**15...Nf8?** Bronsteinはある種のパニックに陥ったのでしょうか。序盤の8...h6に続き、消極的なプレーが黒に大きな問題を突きつけます。

**16.Nxf7!!** 今度こそ、真に強力なナイトサクリファイスです。

### 16...exf1=Q+ 17.Rxf1 Bf5

17...Kxf7にはきれいなチェックメイトがあります。（読み切れますか？）18.Ne5+ Kg8 19.Qh7+! Nxh7 20.Bb3+ Kh8 21.Ng6# です。

17...Qd5!?! には、18.Bb3! Qxf7! 19.Bxf7+ Kxf7 20.Qc4+ Kg6 21.Qg8!+で白勝勢。常に黒キング周りの白マスが弱いことが問題になります。

Bronsteinはビショップを捨ててなんとか逃れようとしますが、Spasskyの攻撃は止まりません。

### 18.Qxf5 Qd7 19.Qf4

攻撃の際は、ピースを残す手が良い手になります。

**19...Bf6 20.N3e5 Qe7 21.Bb3 Bxe5 22.Nxe5+ Kh7 23.Qe4+ 1-0** 23...Kh8 24.Rxf8+ があるため、黒は生き残ることができません。

Spasskyはわずか23手で、アタッカーとして名高いBronsteinをノックアウトしました。しかし、トーナメント全体でみると結果は振

るわず、最終順位は10位でした。

翌年、1961年1月のソ連選手権はインターゾーンの予選となっていました。Spasskyは6位となり、またしてもインターゾーンへの出場を逃しました。才能にあふれ、若いSpasskyにとってこれは大きな挫折となりました。特に第19ラウンドで初出場のLeonid Steinに敗れたゲームは、Talへの敗北と並び、Spasskyのキャリアの中で重要なゲームであったと言えるでしょう。

しかし、この敗北でも、Spasskyの心は折れませんでした。Spasskyは世界チャンピオンを目指して、トレーニング計画を練り、そしてそれを実行に移します。

この計画で最も重要な点は、コーチの変更でした。Spasskyは、アグレッシブなスタイルのTolushから離れ、経験豊富で粘り強いポジショナルプレーを得意とするIgor Bondarevskyをコーチとして迎え入れました。

このBondarevskyとの出会いが、Spasskyのキャリアの転換点となりました。

BondarevskyはSpasskyに綿密に練られたハードなトレーニングを強制し、厳しく長いトーナメントに向けて、体力、精神力の面で準備させることも怠りませんでした。

コーチを変えた効果はすぐに現れました。Spasskyは安定したプレーをし始め、1961年11月のソ連選手権では、2位に0.5点差をつけて優勝します。

これまで世界選手権サイクルで結果の出なかったSpasskyにとって、チャンピオンへの道は険しいものでし



た。1963年の世界選手権サイクルでは、ソ連選手権の準決勝ラウンドからスタートし、決勝ラウンド、インターゾーンと全て1位通過しました。挑戦者決定戦ではKeresを6-4、Gellerを5.5-2.5、最後にTalを7-4で破り優勝。実に100試合近い試合数を戦い、ようやく時のチャンピオンPetrosianへの挑戦権を手に入れたのです。

特に元世界チャンピオンTalとのマッチでは、Bondarevskyの手腕がよく現れたと言って良いでしょう。経験豊富なTalが2ゲーム目に勝って先行したものの、Spasskyが粘り強くプレーを続け、Talを追い抜き、突き放していきました。黒番ではMarshall Gambitが上手く機能し、Talのアクティブなプレーは封じられました。心理的にもチェス盤の上でも、SpasskyとBondarevskyは良く準備していたのです。

ついに、チャンピオンへの挑戦権を手に入れたSpasskyでしたが、最初の挑戦は失敗に終わります。高い守備力で知られる鋼鉄のPetrosianに対抗するため、Spasskyは複雑で白黒どちらにもチャンスのあるポジションを作り、タクティカルなゲームで勝負するという戦略を立てました。Kasparovによるとこれは「挑戦者の典型的な戦略ミス」であり、Spasskyはマッチの前半戦で一度も勝つことができませんでした。

しかし、SpasskyとBondarevskyは次のマッチでは勝てるはずだと、確信していました。SpasskyはGeller、LarsenそしてKorchnoiを大差で下し、再び挑戦権を手に入れます。

Spasskyの2度目の挑戦は、1969

年にモスクワで行われました。

**Petrosian, T**

**Spassky, B**

World Chess Championship 1969

Petrosianが第1局で先勝し、2つのドローをはさんで迎えた第4局です。

1.c4 e6 2.d4 d5 3.Nc3 c5 4.cxd5  
exd5 5.Nf3 Nc6 6.g3 Nf6 7.Bg2 Be7  
8.0-0 0-0 9.Bg5 cxd4 10.Nxd4 h6  
11.Be3 Bg4 12.Nb3 Be6 13.Rc1  
Re8 14.Re1 Qd7 15.Bc5 Rac8  
16.Bxe7 Qxe7 17.e3 Red8 18.Qe2  
Bg4 19.f3 Bf5 20.Rcd1 Ne5 21.Nd4  
Bg6 22.Bh3 Rc4 23.g4 Rb4 24.b3  
Nc6 25.Qd2 Rb6 26.Nce2 Bh7  
27.Bg2 Re8 28.Ng3 Nxd4 29.exd4  
Re6 30.Rxe6 Qxe6 31.Rc1



Spasskyは途中で...Rc4-Rb4-Rb6-Re6という斬新なアイデアを見せて、上のポジションにたどり着きました。黒はeファイルをコントロールしており、満足なポジションです。

ここから見せたプランが、新生Spasskyの強さを良く示しています。

**31...Bg6! 32.Bf1 Nh7!**

ポジショナルプレーの真髄の一つは、働いていないピースの改善です。Spasskyはf6のナイトに目をつけて、ナイトの改善を図ります。

**33.Qf4 Nf8 34.Rc5?!**

34.Qe5!? とクイーン交換を迫れば、互角のポジションでした。Petrosianは時間切迫に追い込まれていたこともあり、Spasskyのアイデアがどれだけ強力か、評価しきれなかったかもしれません。勝ちに行くべきかドローで妥協すべきか、という判断は、世界チャンピオンにとっても難しいものです。

**34...Bb1!** 狙いの一手。g6をナイトのために空けておきます。

**35.a4 Ng6 36.Qd2 Qf6**



黒のナイトは白の弱点である黒マスを狙うモンスターと化しました。次に...Nh4のようなアイデアもあり、f3のポーンが非常に受けづらくなっています。

**37.Kf2? 37.Bb5! Nh4 38.Rc3=** が正しいディフェンスでした。

**37...Nf4! 38.a5??**

時間切迫によるブランダーで勝負はあっさり決まりました。

**38...Bd3! 39.Bxd3 Qxd4+ -+** は簡単に黒が勝ちます。

**39.Nf5 Qg5! 40.Ne3 Qh4+ 41.Kg1 Bxf1 0-1**

このゲームこそ、Bondarevskyとともに磨いたポジショナルプレーが、鋼鉄の壁を打ち破った瞬間です。勢いに乗ったSpaskyは、次の第5局でも素晴らしいプレーを見せます。

**Spasky, B**  
**Petrosian, T**

World Chess Championship 1969

1.c4 Nf6 2.Nc3 e6 3.Nf3 d5 4.d4 c5 5.cxd5 Nxd5 6.e4 Nxc3 7.bxc3 cxd4 8.cxd4 Bb4+ 9.Bd2 Bxd2+ 10.Qxd2 0-0 11.Bc4 Nc6 12.0-0 b6 13.Rad1 Bb7 14.Rfe1 Rc8



QGDのSemi-Tarraschから上の図になりました。白はここまで、次の手を指す準備として、ピースを周到に配置していました。

**15.d5!** 典型的なポーンブレイクです。

**15...exd5?!** 15...Na5が正しいディフェンスでした。もちろんPetrosianはこの手も考えていたはずですが、16.Bd3!? exd5 17.e5! +/- のようなポーンサクリファイスのアイデアは、黒にとって避けたい変化の一つでしょう。

**16.Bxd5!** d5のビショップが盤面全体をにらんでいます。しかしこのビショップを取れば、d5に進んだポーン

が強力なパスポーンになります。

**16...Na5 17.Qf4 Qc7 18.Qf5!**

ここでも、攻撃側の白はクイーンとの交換を拒否します。



**17...Bxd5?** 17...h6! と我慢しておけばまだ戦えるゲームでした。

**19.exd5 Qc2 20.Qf4!**

またしてもクイーン交換を拒否する手筋です。

**20...Qxa2 21.d6 Rcd8 22.d7**

7段目に刺さったパスポーンが、黒のピースを縛り付けました。ディフェンスの名人であるPetrosianといえど、これを振りほどくのは容易ではありません。

**22...Qc4 23.Qf5 h6 24.Rc1 Qa6 25.Rc7 b5 26.Nd4?**

唯一とも言えるSpaskyのミス。26.Re8! Qf6 27.Qxf6 gxf6 28.Rc8! +/- ならば簡単な勝ちでした。

**26...Qb6** 26...Qd6! の方がタフなディフェンスでしたが、27.Nxb5 Qd2 28.Kf1! で白の優位は動きません。

**27.Rc8!** 次にRe8が強力です。黒には完全にディフェンスがなくなりました。

**27...Nb7 28.Nc6 Nd6**



**29.Nxd8! Nxf5 30.Nc6 1-0**

最後はきれいなクイーンサクリファイスが決まって、黒はリザインに追い込まれました。

マッチは12.5-10.5でSpaskyの勝利となり、Spaskyは第10代の世界チャンピオンとなりました。他の世界チャンピオンのようにスムーズな道のりではなく、挫折と復活を経ての戴冠でした。

しかし、その過程でSpaskyは強固なポジショナルプレーのスタイルを身に着け、持ち前の攻撃能力と合わせて、より隙のない、万能型と言われるプレイヤーへと成長を遂げたのです。Spaskyの時代から50年以上経った現代において、弱点があるプレイヤーはトッププレイヤーとは呼ばれなくなりました。

こうして、第5代のBotvinnikから第10代のSpaskyまで、世界チャンピオンは6人連続でソ連出身の選手となりました。次回はこのソ連時代に一人立ち向かった、最も有名な世界チャンピオンを紹介しようと思います。お楽しみに!



# チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

## NO.80 第 47 回ボルティモア・オープン

2007 年 1 月 6 日～7 日

晋作(15歳)の結果: 3.5P/5Games

レーティング 2178 → 2184

大会詳細: [USCF サイトより](#)

フィラデルフィアでの Liberty Bell Open に初参戦予定なのでその練習のつもりで参加。最終戦をあらかじめ Bye しているのはバスケの試合があったからです。1 月から 2 月末まで毎週日曜日はバスケのリーグ戦に出場しています。ハイライトは UMBC の John Rouleau と。4 時間半の熱戦のあと引分け（彼は 2 枚目俳優のようで超ハンサムです）。何度も GM Ehvest が見に来てくれました。なかなか面白い試合だったようです。この引分けで FIDE は僅か 2 ポイントほどあがるようです。この前 National Chess Congress で大きくレートを下としたものの少しずつまた回復してきています。直後にバスケ試合会場に直行、ぎりぎり間に合って 息子はほぼコートに出っぱなしでした。土曜日は Indoor Track のタイムトライアルを休みました。（補習校も休みましたけど、、、）なかなかスポーツとの両立も大変です。この前日は首都圏チェスリーグ、わが校が Home で相手チームを迎

えました。

大学の冬休みもそろそろ終わりで、朝、晋作を学校に送ったあと、長男を大学の寮まで（片道 250 km）送って行きました。途中うっすらと銀世界でしたがたいした雪ではなく助かりました。長男の CD をガンガンかけながら最初は私が休憩後は長男が運転。トランクいっぱいの荷物で行きました。到着後、私は寮の部屋で食べ物だけちょっと整理してすぐに帰ってきました。帰りはノンストップで結構とばしたので 3 時間半かからず、晋作の迎えに間に合いました。さすがにちょっと腰から足にかけてだるい感じになりましたが。実家の両親などは大学生の

長男と二人でアメリカの大地をドライブできるなんて本当に幸せだといいます。送り迎えを「しんどい」と思えばそれまでですが物は考えようですね。長男は Math Dept の教授と会って一年生で仕事がもらえたそうです。（時給は安いですが、、、）Researcher にもなれるそうですが後期は 4 年生用の数学をとるので大変そうなので Grader（Grade をつけるひと）で様子を見るそうです。前期の頑張りが効いたようでコネもなにもないところで（日本もそうでしょうがアメリカは本当にコネ社会です）自分の実力だけでがんばっているのが偉いなあとと思います。



# 普段の練習を 本番と同じ駒、同じ盤で





モダン・スタントン 96mm ヘビー



プラスチック製  
駒のみ

¥3,980



Yahoo!ショップ   
Amazon.co.jp 



オフィシャル・スタントン 95mm



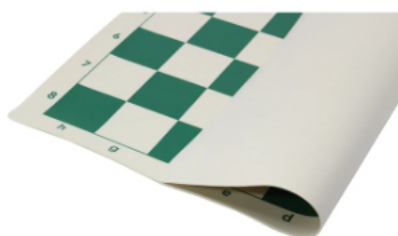
木製  
駒のみ

¥12,800





Yahoo!ショップ   
Amazon.co.jp 

トーナメント 51cm 57mm



ビニール製  
盤のみ

¥2,680



Yahoo!ショップ   
Amazon.co.jp 

モダン・トーナメント 44cm ヘビー



プラスチック製  
盤と駒のセット

¥4,980

Yahoo!ショップ   
Amazon.co.jp 

他にもたくさんのチェス用品を取り揃えております  
チェス用品のご購入は



**CHESS JAPAN**  
GAME AND ART

Yahoo!ショップ：<https://store.shopping.yahoo.co.jp/chessjapan/>

公式HP：<https://www.chessjapan.com/>

※価格は掲載時点のものです。



## 編集部

木下奏子 神田大吾  
山内美加 真鍋浩  
鈴木秀聡 桑田晋  
森谷真理子 (順不同)

## 発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。  
ご意見・ご感想などは [japanchess.editor@gmail.com](mailto:japanchess.editor@gmail.com) までお寄せください。